

事業実施、施設管理運営の基本方針  
エコプラザは、ごみ減量化、低炭素化に向けた行動を促し、市民生活に寄り添うことを基本姿勢に、次の方針で、市民の日常生活における衣食住を考慮した事業を実施し、施設の管理運営を行う。

**市民にごみ減量化、低炭素化に向けた行動を促す(気づき・発見・共感)**  
・新たに買わなくても使える素材がある。  
・すてなくてもいい方法のヒントをくれる機会がある。  
・すてなくていい方法を一緒に考えてくれる人がいる。そのためつながりがある。

**市民のごみ減量化、低炭素化に向けた行動を支援する(ささえる・はぐくむ)**  
・市民の「こうしたことができたらいいな」に耳を傾け、一緒に考え、取り組む。  
・それができる人とのつながりがある。  
・誰でも、いつでも参加できる場がある。

**【管理運営】**  
全ての市民が利用することでごみ減量化、低炭素化に向けて行動を起こす(つかう・ふれあう)  
・誰でも、自由に利用できる。  
・利用するすべての人が、ここで過ごすひとときを分かちあうことができる。  
・利用者のニーズに応じて、自在に空間を扱える。

**聞く耳を持つ人** 市民や主催者等利用者の話に耳を傾けるスタッフを常時配置し、以上の原則を踏まえつつ、利用者のしたいことを実現する方法を一緒に考え、柔軟に施設利用の運用を図る。

**広報** ・多くの市民がエコプラザを利用し、実施する事業に参加することで、ごみ減量化、低炭素化に関心を持つようにするため、広報誌の発行、SNSの利用など広報に取り組む。  
・広報誌の企画、編集の一部を市民参加型でプロジェクト化する。

**新クリーンセンター(仮称)との連携** ・(例)新クリーンセンター(仮称)の見学者が、エコプラザにも訪れるよう、新クリーンセンターと連携した見学者コースの設定、相互案内などを行う。

**カフェ・ショップ、その他の運営(要検討)**  
・カフェを設置する。 ・アップサイクル製品などを販売するショップを設置する。 ・足湯を設ける。

**ワークショップ** ・すてなくてもいい方法のヒントをくれる機会としてのワークショップ  
・「ごみ素材化ワークショップ」 ・素材化することが目的ではなく、素材化する方法を理解し、その体験を通じて一緒にすてないようにすることに取り組むつながりを育むことが目的。 ・クリエイティブ・リユース、アップサイクル、リペアといったキーワードに関連し、市民の日常生活における衣食住に関わるテーマのワークショップ

**素材ライブラリー** 「ごみ素材化ワークショップ」でできた素材を分類、展示し、必要な人に提供する「素材ライブラリー」

**展示事業** アップサイクル製品の展示など、エコプラザに訪れた人が、何気なく、すてなくてもいい方法のヒントに触れる機会として展示

**プロジェクト事業** ・すてなくてもいい方法のヒントをくれる機会として、一定期間を通じて取り組むプロジェクトを立ち上げて実施する。  
・専門家を招聘し、運営主体のスタッフと市民参加者が協働で取り組む事業。

**市民サポート事業** 市民のごみ減量化、低炭素化に向けた行動を支援する機会として次の事業を行う。  
**「モヤモヤ・カフェ」** (個人的なモヤモヤに耳を傾けて、プロジェクトにつなげる機会を定期的開催)  
**「市民発意型プロジェクト支援事業」**  
(市民の「こんなことしたい」をプロジェクト化して、エコプラザの共催事業にして実施するための支援プログラム)  
**「リペア工房」** (市民が大切なものを修理して使い続けるための場所や道具、その技術を教えてくれる仕組みを持ち、市民同士が学び合い、教え合う場を常設する。)  
**「エコポ」**(市クリーンセンターが2012年より実施している、リユース掲示板エコポを、エコプラザの事業として継続)  
**「相談機能」** ・すてなくていい方法を一緒に考えてくれるスタッフを配置して「相談機能」を常時設けておく。また、相談に応じられるよう、市民活動団体、事業者、企業、作家、クリエイター、アーティストなどと広範なつながりを作っておく。

**市民共催事業** 市民発意型プロジェクト支援事業で立ち上がったプロジェクトや、その他の市民団体が主催する事業について、実施目的がエコプラザ主催事業と共通する場合、市民共催事業として実施する。「かえっこ」は、市民共催事業として実施する。

**その他の環境啓発事業** 市の環境施策に基づき、市民への環境啓発を目的に、資源、エネルギー、ごみ、緑、水循環、生活環境などの多様な視点から実施する事業。定期的なイベント開催など。(例)環境フェスタ

エコプラザ(仮称)事業具体的な取り組み体系図(案)